

# アイヌタイムズ 第23号 日本語版

---

---

---

## ★ ラウラウ (コウライテンナンショウ)

秋の終わりごろ、果実が赤くなると、ラウラウ(註1)の根を掘って、炉の中の熱い灰の中に入れて焼いて食べました。

ただし、根の黄色い部分は有毒なので削り取らなければなりません。

ラウラウをふかして、私も食べると、甘みがあってジャガイモのような味がしました。その時、十分に毒が削り取られていなかったので、舌がしびれてしまいました。

青木愛子さんは次のように言いました；「フチ(おばあさん)はラウラウの根を掘ってきました。フチは『これを薬として食べると、いつまでも元気だ』と言いました(\*註2)。母親は、『もし間違ったら困るから食べるな(\*註3)』と言いました。だから私は食べたことはありません」と話しました。

その毒の元はシュウ酸カルシウムというもので、ラウラウを手で触れるとかゆくなって腫れます。間違って毒を食べると、舌、のどが痛くなって腫れます。重症だと(\*註4)窒息する人もいます。

腹に虫がわいた時に、黄色い部分を舌に触れないようにして丸呑みしました。

青木愛子さんは言いました；関節が腫れる場合にラウラウを掘ってきて、それをすって塗るとよくなりました。すって麦粉を混ぜて、腫れているところに塗ります。

田畑アキさんは言いました；ラウラウの根をすって、ぼろきれに包んで、それを腫れたところにつけてしぼりました。

ラウラウは日本ではコウライテンナンショウ(サトイモ科)という名前です。北海道、東北地方、関東地方から近畿地方までの太平洋沿岸、中国東北地方(満州)、朝鮮半島、サハリン、千島に生えています。山に自生します。

漢方では根を乾燥したラウラウは天南星(テンナンショウ)と呼ばれています。それで痰を取り除くことができ、腫れをひかすこともできると言われています。抗腫瘍性もあると言われています。

[横山 裕之] 沙流・千歳

(\*註1) コウライテンナンショウ、以下ラウラウと記しています。

(\*註2) 日本語原文は「長生きの素だと言って食べました」。

(\*註3) 直訳は「間違ったらいけないぞ、決して食べるな!」

(\*註4) 直訳は「その病気が悪いならば」。